

土木学会 会長特別タスクフォース

現場イノベーションプロジェクトエクト



報告する中村幹事長

土木の魅力を高める活動「これから始まる」

タスクフォース幹事長の中村光氏(名古屋大学)がタスクフォース活動報告の全体概を報告、続いて各ワーキンググループ(WG)主任がそれぞれの活動内容を報告した。

土木学会は、平成28年度会長特別タスクフォース「現場イノベーションプロジェクト〜次世代に繋ぐ生産現場のあり方〜」を立ち上げ、土木の生産現場の生産性・安全性の向上、働き方改革に向けて、様々な活動を進めてきた。

WG3は「女性や若手、シニアを含めた幅広い人材、土木界の裾野拡大」をテーマに議論・検討を進めてきた。

次世代を担う人材の確保 土木の裾野拡大に向けて

昨年4月から活動を始めた会長特別タスクフォースで検討・議論した内容については、最新の『土木学会誌』6月号で特集記事を掲載、特集の中で中村幹事長は「現場のイノベーションのための土木学会の今後の活動」と題するまとめ記事のなかで「生産現場は土木の根幹であり、その魅力を高め、次世代の担い手を確保し続けることは、『人間が人間らしい生活を送るため』の土木の使命を果たすことである。タスクフォースで検討・議論した内容は、これで終わりはなく、これから始まる」という一文を寄せ、魅力ある生産現場を次世代につなぐために、土木学会が今後取り組むべき課題についてテーマ別に簡潔に示している。

土木の魅力 効果的に情報発信へ



報告の主旨は次の通り。WG3の具体的な検討項目は、土木の魅力と伝えるための活動、現場と教育の場をつなぐ新たな仕組みづくり、土木界における多様な人材の紹介と育成、何よりも「土木技術者の使命」や「土木の魅力」を発信すること。土木学会の重要な使命であること、土木界の魅力を発信すること、土木界と社会との接点を広げ、土木界の魅力を伝えること、土木界の魅力を伝えること、土木界の魅力を伝えること。

能については、言うまでもないが、土木界は百年、何百年と人々の生活を豊かにしたり、守ったりするものであり、機能しても社会的意義はきわめて高く、非常に重要なものである。そして「土木の魅力」は土木を支える「人」の3つの要素の中で最も重要な要素である。

「技術」「暮らしを支える機能」「人」

技術者「大学生・大学院生」に対しては「技術」の部分に深く伝えていくべきではないか。一方、「人」の魅力に関しては、どの人材年齢にも共通するものである。こうした重みを少し意識すること、今までの活動より効果的に情報発信していくことができないか。

続いて現場を知ってもらうという点でも魅力の発信が重要なポイントとなる。16年度の会長特別タスクフォースの行事として高校生向けの見学会を実施した。特に高校生は、次の土木技術者の頭である。彼らに対しては技術的なことをしつかり見せていくこと、ゼネコンの技術研究所の協力を得てコンクリート実演などの見学会を実施した。

Advertisement for Takenaka's 'Future Steps' project. It features a woman in a white uniform and hard hat, with a small robot-like figure. Text includes '未来の話を、今しよう。' and '未来の歩き方 戸田建設が考える2030年の建設業の姿'.

Advertisement for Takenaka's 'Human and Nature' project. It features a large, modern building with a glass facade. Text includes '人と自然をつなぐ、伝統と革新をつなぐ。' and the Takenaka logo.